

清水川の改修計画について



千葉県海匝地域整備センター
銚子整備事務所

清水川流域の被災状況

清水川流域では平成に入り家屋浸水被害が3回発生しています。平成8年には河川改修が行われ、治水安全度は向上しましたが、平成14年12月洪水において床下浸水被害が発生しており、依然として早急な治水対策が望まれています。

【平成8年9月22日】



【平成4年10月20日】



【H8年9月21日朝日新聞】



【表 清水川流域の洪水被害状況】

洪水名	降雨原因	60分最大雨量(mm/hr)	被害状況
H3.9.8	台風15号	45.5	R126号、JR総武線ガード下道路冠水
H4.10.20	台風18号	62.5	床上浸水29件 床下浸水43件 JR総武線ガード下道路冠水
H7.9.17	台風12号	34.0	JR総武線ガード下道路冠水
H8.9.22	台風17号	37.0	床上浸水5件 床下浸水33件
H12.9.24	集中豪雨	56.0	床下浸水1件 JR総武線ガード下道路冠水
H14.12.4	集中豪雨		床下浸水2件

清水川事業概要

位置図 (1/25,000)



1. 事業概要

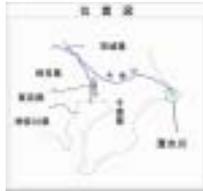
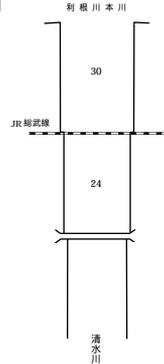
清水川は近年約10ヶ年で家屋浸水が多発しています。平成4年の洪水では浸水家屋72戸となる甚大な被害を受けました。

今回の事業では、近年で最大の家屋浸水被害をもたらした、**平成4年10月洪水**に対し、安全に洪水を流下させることができる川づくりを目指します。

2. 事業内容

全体河川改修延長 1,612m

【計画流量配分図】



浸水戸数72戸 浸水面積約7ha

清水川事業概要

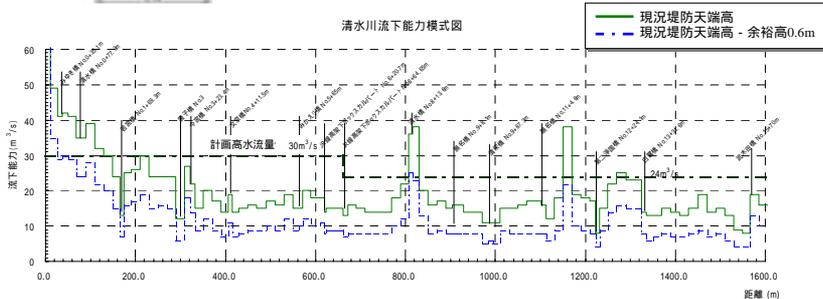
3. 河道掘削

清水川は目標とする洪水に対し、ほぼ全川で川の大きさが不足します。このため川を掘削し、川の大きさを大きくする必要があります。川の大きさについては、最小限の掘削で済むような形を設定します。特にJR線から上流の川幅の狭い区間においては住宅が密集していることから、現在の川幅のまま川底を掘り下げる計画とし、掘削量が最小となるようにしています。

【標準横断面図】



清水川では、洪水流が河道満杯 (= 現況堤防天端高) の状態で流れた場合でも、計画高水流量を流すことができません。このため河道掘削が必要となります。



関連他事業

現在、銚子大橋の架換が行われています。清水川は現在の銚子大橋の橋桁をくくり、利根川に流れ込んでいます。このため、清水川改修は銚子大橋架換事業の進捗と合わせて、効率的に実施していきます。



銚子大橋は昭和37年に設置され、約40年が経過し塩害や交通量の増加で老朽化が進んでいます。さらにH12年6月3日の地震により、橋梁のトラス部が破損し、安全性の問題が生じています。このため平成16年からH23年で現在の銚子大橋の上流側に新規橋梁を設置する計画が進められています。

清水川と銚子大橋の交差状況写真

【みゆき橋から清水橋を望む】



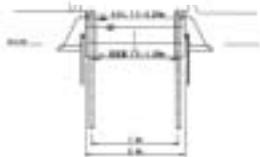
【清水橋から清水川の上流を望む】



大橋の関連区間の改修

銚子大橋と清水川の関連区間は河口部から今宮橋までの区間です。銚子大橋の橋脚と清水川の効率的に交差し、用地買収が最小となるような河道計画を実施しています。

【標準断面】



有効河積を確保しつつ河道幅が最小となる断面を設定し、効率のよい改修を行います。

